

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



全国からの参加者が岡山教会で新たな出会いと交わり

部落の完全解放を願い

第10回部落解放全国会議

第10回部落解放全国会議を二〇〇八年六月九日(月)～十一日(水)に東中国教区で開催する事ができました。神様の導きを感じました。また、全国の部落解放センターを支えてくださる皆様に感謝します。

第10回目の全国会議は二〇〇六年六月に兵庫教区にて開催の予定でした。その準備段階で部落解放センターは兵庫教区の関係者から、「活動の有り様(ありよう)に関わる問い」を受けました。それは部落解放センターが、今どこに向かつて歩んでいるのかという問いであり、「部落解放方針」に「他の差別と連帯していく」とあるにも関わらず、なされてないとの批判がありました。この事は初

全国から二〇〇名を超える参加

めて問いかけられた事ではありません。それまでも問いかけられており、部落解放センター活動委員会にて協議を重ねておりまして、改めて問いかけを受け、協議いたしました。何度か協議を重ねた後、「部落差別がなくなくなりますように、全ての差別がなくなりますように」と願い、さまざまな差別と闘う仲間と連帯していくことを今回の全国会議の中でもハンセン病のフィールドワークを行い、東中国教区での課題を共に学ぶ時が与えられました。

全国会議の中でかつて約一三〇年前に岡山教会で起こった差別事件に学ぶ時がありました。事柄は岡山教会での聖餐式の中で起こったことです。それは、一つの杯でまわされたぶどう酒を被差別部落出身の方が飲んだ後で聖餐の拒否が起こった事でありました。この事は大問題となりましたが、宣教師が間に入り、ことなきを得たと報告がありました。それ以上は記録がないので解らないとの事で、イエス・キリストによって祝福されたぶどう酒を神の恵みとして受け取るよりも、人間に芽生える差別のところが優先されたのです。大変悲しい出来事です。この事をふまえた上で、次の事を考えさせられました。岡山教会はその当時被差別部落への伝道を行い、

その地で家庭集会をおこない深くかわりをもっていました。その結果、岡山教会の信徒の1/6は被差別部落の人であったと報告されました。現在の教会が聖餐拒否のような差別事件は起こさないとしても、差別を受けている人と積極的に出会って共生活していこうとしているだろうか。被差別部落、ホームレスの方々、外国からの就労者、多くのさまざまな差別を受けている人、困っている人と積極的に出会い、共に生きていくこととしているだろうか。知っているが無視するのも差別ではないだろうかかと考えさせられました。



現場研修「沾染一揆」

人は差別され襲撃を受けた被差別部落の子孫でした。「美作騒擾」とは明治維新からの急速な近代化に戸惑い、「解放令」により、優越感の対象を失った農民が、新政府のお先棒かつぎだと戸長、金持ちなどの打ち壊しを行い、やがて、その矛先(ほこさき)は被差別部落に向けられ、焼き討ちと殺人の暴動、騒擾となりました。悲しい出来事です。長く公表されませんでした。孫が先祖の罪を明らかに

し、このような差別が二度と起こらない事を願ってフィールドワークを続けておられます。

この方にとっては大変苦しい事です。先祖の罪を真摯に受け止め、差別撤廃の働きをされている姿を見せられ私は感動しました。全国会議は他にもさまざまなプログラムがあり、多くの事を教えられました。また、多くの人と出会ったことを感謝いたします。学んだ事を私の地元で、部落解放センターの歩みの中で考えていきたいと思えます。第10回部落解放全国会議を恵みのうちに終える事が出来ました。心から感謝していただきますことを心から感謝いたします。

(東谷 誠報・部落解放センター運営委員長)

荒野

二年後の開催までに、更に部落解放への思いを強め、今回の芽生えを実りへと少しずつでも前進していければと思っています。

(指方信平報・実行委員)

▼「データがないうちに理論づけするのは、大きな間違いだ。事実に向かい合う議論をつくり出すのでなく、無意識のうちに理論に合わせて事実をねじ曲げるようになってしまつたらね」…「ボヘミアの醜聞」でのシャーロック・ホームズ。▼全く理解に苦しむ事件が相次いだ。その度に、マスコミで専門家(?)が分かったようなどことを言う。「時代の当然なる所産であって、充分に予見できたことだ」。

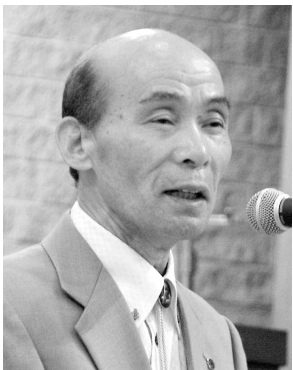
私の中の部落差別と解放へのつながり

六月九日(月)～十一日(水)、第10回部落解放全国会議が岡山教会にて開催された。全国各地から二〇〇名を越す参加者が折りこたえを携えて集った。テーマは「宣教の課題としての部落解放『私の中の部落差別と解放へのつながり』」。今回の全国会議は開催の基本理念として、当該教区である東中国教区にて立ち上げられた実行委員会において、テーマ並びにプログラムの一切を相互に理解を深めつつ企画・準備するといふものであった。準備当初

段階では、部落解放のための全国集会を東中国教区の我々が実際に担えるだけの素養と実力があるか大いに不安であった。しかし、この機会によって開催者側であるわたしたちこそが、全国からの参加者の方々と新たな出会いと交わりを通して、部落差別「問題」を自分自身の問題とされる気づきをこの地元・岡山の地で与えられたいと願い、またこの岡山から部落解放のために更なる歩みを進めていく方々の歩みに東中国教区の者たちもつながってい

く一歩を共に踏み出せたらとの思いをテーマに込め準備した。また、あらゆる差別と闘う仲間との連帯が強く求められていくことを願ってプログラムを企画した。そうした願いは、三日間のプログラムの中で実りとはまだ言えなくとも芽生えとなったことであらう。

三日間に亘るプログラムはどれも、わたしたちの根底に深い問い投げかける内容であった。一日目には、狭山事件の当事者として四五年間の闘いをなお懸命に続けておられる石川一雄さん



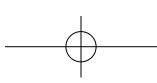
「部落差別にもつく冤罪です」
石川一雄さん

は、二日目は「美作騒擾(そうじょう)」「沾染一揆(せんせんいつぎ)」「ハンセン病療養所の現在」の三グループに分かれ現場研修が行われ、差別の歴史をそれぞれの生活の視座へと現在化し、人々のうめきと解放への願いに共鳴

する日を過ごした。その後、深澤獎牧師(佐世保教会)による聖書研究の時が持たれた。人は信仰の正しきによつてではなく「キリストの真実」によつて救われ解放されることを確かめ、荊冠のキリストが生きて働いてくその現場へと再び生まれ得るキリストの名による差別の不幸を考えさせられた。また夜の分科会

ではテーマ別に六つのグループに分かれ、更なる研鑽を深めた。翌日、全体会をして派遣礼拝にて、あらゆる差別からの解放と、互いの働きのために祈りつつ、荊冠のキリストが生きて働いてくその現場へと再び生まれ得るキリストの名による差別の不幸を考えさせられた。また夜の分科会

財務改善と健全化を最優先課題に、予算決算委員会



(3) 2008年7月12日

教 団 新 報

(第三種郵便物認可)

第 4654 号

タイ・アメリカ宣教師の帰国報告会

第5回世界宣教委員会

第五回世界宣教委員会が、去る六月三日(火)に開催された。

今回は、浅井重郎宣教師がタイ・チェンマイで、また、浅田容子宣教師がNY・ユニオン日本語教会での長年の働きを終えて退任、帰国されたので、帰国報告会を、最初にもった。委員

会と共に会食していただき、御三人の数十年にわたる宣教のご苦労と喜びを分かち合い、感謝の慰労金を差し上げた。

次いで、議事に入り、以下のこと協議された。
①決算・予算について承認。
②「日本基督教団とアメリカ改革派教会との宣教協約合意書案」および「日本基督教団とアメリカ合衆国長老教会との宣教協約合意書案」が提示され、これをもって議長提案の常議員会

議案とすることに合意し、議案としての体裁を整えることを作業部会に一任した。
この二つの宣教協約合意書は、手続きを終れば来る一〇月の教団総会で調印式を行うことになる予定である。
③何人かの派遣宣教師に関する事柄が取り上げられ、秋葉睦子宣教師(ヘルリン日本語教会)及び木原葉子宣教師(カナダ・フレージャーバレー日系人教会)の任期延長を承認。相良昌彦宣教師(NYユニオン日本語教会)の特別支援費一〇万円の支出を承認。
④松下道成宣教師(サンノゼ・ウエスレー合同メソジスト教会)が明年一月退任するので、後任宣教師派遣要請を受け、公募することを決定。また、バンクーパー日本語教会への宣教師についても公募することにその委員は伊藤瑞男委員、大宮博氏、棟居勇氏とする。ことになった。

しいとの要請に対し、実務委員がその方を面接することを決めた。
⑥派遣宣教師および受け入れ宣教師の内規を作るために作業部会を立ち上げた。その委員は伊藤瑞男委員、大宮博氏、棟居勇氏とする。ことになった。

について発題を聞き、質疑や意見を交換した。「天皇が沖縄戦を引き起こした」という思い、天皇への反発もある一方、天皇「陛下」と未だに呼んでしまう思いがある。「神以外に神はない。もう神さま以外を拜むことはない。しかし戦争中、自分たちは正しいと信じて、天皇のために命をかけた。戦後、簡単に心を切り替えることはできなかった。その苦悩を知らずに、簡単に(当時のこと)を批判して欲しくない」というある信徒の声を紹介された。また、天皇へのうらみや憎しみではなく、天皇のためにも祈るという思いが沖縄の教会の中にあることを知らされた。

第五回委員会は九月十一日(木)〜十二日(金)に開催。一日目に塩入隆氏長野県短期大学名誉教授、日本聖書神学校講師を講師に招き、靖国神社の歴史について講演いただく。

同志社女子大学 土橋 晃三井啓示
宮本晃祐、船本弘毅
深田 寛、小島一郎、宗像 基
隠退より復帰
林比佐雄
教会設立
大正めぐみ
(大正伝道所より)
教会通信先変更
鹿屋伝道所 鹿兒島県神石郡神石高原町小島二二六〇 樗木千鶴子方
教師改姓
秋山 泉↓鈴木 泉
白砂千衣子↓落合千衣子
笠置隆司↓廣瀬隆司

沖縄の視点から見た天皇制で発題

第35回総会期第四回靖国天皇制問題小委員会が、二〇〇八年六月九日(月)一〇日(火)、日本キリスト教会館四階会議室で開催された。

西之園路子委員長による開会礼拝の後、議事日程が承認され、報告・協議が行われた。
諸報告、前回議事録承認に続き、第36回教団総会報告書」の小委員会報告について確認し、「評価と展望

のような形でまとめ、諸教会がこの課題と取り組むための手がかりとなればとの願いを持っていく。

今後ともこれらの課題を担うため「第36総会期 靖国天皇制問題小委員会継続のお願い」の教団への提出を、社会委員会に申し出ることを承認した。

二日目は、芳澤信委員よりに「沖縄の視点から見た天皇制」を主題に、沖縄の文化、歴史、人々の思い等について講演いただく。

お詫び・訂正 新報四六五号二面北海教区総会の見出し「訴願なるもの」の取扱いを巡り議論を、「訴願」の取扱いを巡り議論に変更致します。また、記事中の「教区総会の約一ヶ月前にはじめて当該教会に開示された」を、「教区総会の約一週間前にはじめて当該教会に開示された」にお詫びして訂正致します。



派遣宣教師帰国報告会にて、右から浅田容子氏、浅井重郎・スストラ夫妻

の任期延長を承認。相良昌彦宣教師(NYユニオン日本語教会)の特別支援費一〇万円の支出を承認。
④松下道成宣教師(サンノゼ・ウエスレー合同メソジスト教会)が明年一月退任するので、後任宣教師派遣要請を受け、公募することを決定。また、バンクーパー日本語教会への宣教師についても公募することにその委員は伊藤瑞男委員、大宮博氏、棟居勇氏とする。ことになった。

について発題を聞き、質疑や意見を交換した。「天皇が沖縄戦を引き起こした」という思い、天皇への反発もある一方、天皇「陛下」と未だに呼んでしまう思いがある。「神以外に神はない。もう神さま以外を拜むことはない。しかし戦争中、自分たちは正しいと信じて、天皇のために命をかけた。戦後、簡単に心を切り替えることはできなかった。その苦悩を知らずに、簡単に(当時のこと)を批判して欲しくない」というある信徒の声を紹介された。また、天皇へのうらみや憎しみではなく、天皇のためにも祈るという思いが沖縄の教会の中にあることを知らされた。

第五回委員会は九月十一日(木)〜十二日(金)に開催。一日目に塩入隆氏長野県短期大学名誉教授、日本聖書神学校講師を講師に招き、靖国神社の歴史について講演いただく。

同志社女子大学 土橋 晃三井啓示
宮本晃祐、船本弘毅
深田 寛、小島一郎、宗像 基
隠退より復帰
林比佐雄
教会設立
大正めぐみ
(大正伝道所より)
教会通信先変更
鹿屋伝道所 鹿兒島県神石郡神石高原町小島二二六〇 樗木千鶴子方
教師改姓
秋山 泉↓鈴木 泉
白砂千衣子↓落合千衣子
笠置隆司↓廣瀬隆司

消息

佐原英一氏(隠退教師)



五月八日、逝去。六三歳。京都府に生まれる。一九六九年同志社大学大学院修了後、弓町本郷教会に赴任。その後、今治教会を牧会し、七十六年から二〇〇八年まで京都聖公会牧師を務め隠退した。七十六年から二年間、



藤原 亨氏(教務教師)

五月十五日、逝去。七十二歳。熊本県に生まれる。一九六一年日本聖書神学校卒業後、田園調布教会に赴任。その後、鹿兒島城南、出町、福野各教会・伝道所

事務局報

補教師登録

鮎川健一、大庭康男、栗田二郎、三浦永悟、八束 清
(二〇〇八・四・二九受允)
海老原道宣、望月達朗、藤川義人
(二〇〇八・五・五受允)
浅場知毅、大山 豊

(二〇〇八・五・二一受允)	木村智次、八木靖之	(二〇〇八・五・二五受允)	田邊良三、井上博子	(二〇〇八・五・二八受允)	正教師登録	柳瀬 聡	(二〇〇八・五・五受按)	若林一義、相見泰恵	足立麻子、上林 護	北川善也、久保見誠	高橋 潔、張 悦子	(二〇〇八・五・六受按)	藤原信之、森岡高康	(二〇〇八・五・一九受按)	梅田正二	(二〇〇八・五・二五受按)	嶋田律之、松井 初	川中 真	(二〇〇八・五・二八受按)	教師異動	塩谷一粒 辞(主)大友英樹	就(主)穂田みどり	東京聖書学校吉川	大阪九條 辞(主)大門義和	就(主)山口純弘	日本基督教団出版局	青山学院大学	就教大宮 謙	原宿 辞(主)土橋 晃	就(主)石田 透	駒場エテン 辞(主)山口智子	上富坂 就(主)山口智子	北柏めぐみ 辞(主)中川知子	弦巻 就(主)関川泰寛	柳井 辞(主)遠藤年之	就(主)角田 潤	竹原 辞(主)荒川純太郎	就(主)遠藤年之	名古屋東 辞(主)清水与志雄	就(主)林比佐雄	行田 就(主)清水与志雄	野方町 辞(主)姜 俔米	阿佐ヶ谷 就(主)姜 俔米	仙台五橋 辞(主)三井啓示	同志社女子大学	辞(主)近藤十郎	辞(主)近藤十郎	辞(主)千葉敦志	木造 就(主)千葉敦志	上山 辞(主)柳谷 明	就(主)石井美琴	山形学院高等学校	就(主)三ツ本武仁	東京新生 辞(主)横山義孝	就(主)横山義孝	辞(主)横山基生	就(主)横山基生	長岡京 辞(主)前島隆志	就(主)中村信博	京都葵 辞(主)中光弘治	就(主)戸井雄二	飯塚 辞(主)正井陽子	長崎馬町 辞(主)沖田康孝	別府不老町 辞(主)吉住高志	周船寺 辞(主)秋永好晴	就(主)森言一郎	佐賀関 辞(主)福永秀光	就(主)吉武二郎	有田 就(主)福永秀光	長崎清石 辞(主)信太聖吾	就(主)星野江理香	坂出 辞(主)田尻真介	就(主)信太聖吾	丹原 辞(主)吉澤 永	就(主)山崎正幸	仙台松陵 辞(主)深田 寛	就(主)田尻真介	東京聖書学校	就教大友英樹	青山学院大学	就教谷口裕子	小平学園 辞(主)宗像 基	就(主)横山正美	金沢南部 辞(主)三和紀夫	松山東雲中学・高校	辞(主)辻村佳子	教師隠退	山里勝一、佐藤千郎	山本文雄、佐原英一
---------------	-----------	---------------	-----------	---------------	-------	------	--------------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------------	-----------	---------------	------	---------------	-----------	------	---------------	------	---------------	-----------	----------	---------------	----------	-----------	--------	--------	-------------	----------	----------------	--------------	----------------	-------------	-------------	----------	--------------	----------	----------------	----------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------	----------	----------	----------	-------------	-------------	----------	----------	-----------	---------------	----------	----------	----------	--------------	----------	--------------	----------	-------------	---------------	----------------	--------------	----------	--------------	----------	-------------	---------------	-----------	-------------	----------	-------------	----------	---------------	----------	--------	--------	--------	--------	---------------	----------	---------------	-----------	----------	------	-----------	-----------

《宣教師公募 各一名》
①米国・ウエスレー合同メソジスト教会(サンノゼ) 日語部主任教師
②カナダ合同教会バンクーパー日系人合同教会 日語部主任教師
◎資格Ⅱ日本基督教団正教師、要英語力
◎締め切りⅡ2008年9月12日(金) 必着
◎選考Ⅱ書類と9月25日の面接をもって決定
◎資料請求Ⅱ世界宣教部 TEL 03-3202-10544

牧師のパートナー

中部教区愛知西地区「ベタニア会」

中部教区愛知西地区の「ベタニア会」について紹介させていただきます。

この会には長い歴史があり、最初は「愛岐地区牧師夫人会」という名称で、一九六六年からの記録が残されています。

毎年二・三名が交代で当番となり、年に一度の研修会のお世話をさせていただくのですが、その当番になるとまず、前年度の方から、今までの記録ノートの入ったずしりと重い袋が引き継がれます。袋の重さと同時に、責任の重さが肩にのしかかってくるような気持ちになります。

けれども、いざその記録ノートを開いてみると、毎年毎年心をこめて準備がなされ、共に学び、共に語り合うことによって、多くの人達が励ましと希望を与えられてきた様子が伝わってきて、今年も是非、良い会を開催できますようにという、前向きな気持ちになれるのです。

記録によると、この会の前身は、一九五〇年代からあり、はじめは

信徒側主催の「慰労会」という形だったようです。後に牧師夫人自らの手で行う「研修会」となり、その第一回目が一九六六年でした。はじめの頃は年に二回、その後毎年一回ずつ開催され、今年度は第五〇回目を迎えることになりました。

「牧師夫人会」という名称を見直して「ベタニア会」となったのが、一九九〇年です。最初の頃からこの会には「牧師夫人だけでなく、伝道師・牧師・教務教師・隠退教師・無任所教師の夫人（妻）達が参加していました。それぞれに立場は少しずつ違っ

学びと親睦で 共に成長する会

小林 英子
(熱田教会員)

これからも、若い人から多くの経験を積んだ人まで、共に集い、主の恵みを受けて成長していける会でありたいと思います。

最後になりましたが、この会の費用は、地区会計から予算化されたものをいただいています。多くの方々のお支えによって今日まで継続できたことを感謝し、これからもずっと続けていけるようにと願っています。



第 49 回ベタニア会研修会、2008.2.4

「今あるニール（家）の子供達の中には、ダツカルの孤児院にいたストリートチルドレン五人も含まれている。路上で生活していた彼らは、親にこみのように捨てられ、『Nothing（無に等しい）』、そして『死んだ（も同然）存在だった』子供達は、幼い頃から愛情に飢え渴ぎ、『自分が大切な存在である』という感覚が持てない。家では『人として生きること』を取り戻すようにしている。』これらは、テゼ共同体のブラザーが語った言葉です。

「テゼ共同体のブラザーが語った言葉です。岩本ワーカーは、長く障がいのある人々と共に歩んできたことの延長線上で、今に至っています。ニールは、問題解決のためにあるのではなく、ただ彼らに寄り添う場所です。子供達の『闇』ではなく、『光』について語りたい」と語り、再び出発しました。

JOCSの掲げる基本聖句は、「平和をつくり出す人々は幸いである」です。現地の子供達との出会いから、「平和をつくり出すのは、私たちではなく、その子供達一人ひとりの存在なのだ」と教えられました。ダツカルに死んだに等しい形で捨てられていた孤児は、「イエス・キリスト」でした。共に生きることの意味について深く考えさせられます。私の好きな言葉に、
「happiness is homemade」という言葉があります。愛と慈しみの関係、心が通う温かな居場所（家）から、「平和」が生み出されていきます。それは祈りと業により育まれていくのです。（大江 浩報・

“Happiness is homemade”



テゼ共同体ブラザーフランク（左）、岩本直美ワーカー（右）

ひととき

中田 典子さん

備えられた道を回って、
母校の教諭に



1968 年生まれ。銀座教会員。東洋英和女学院中高 英語科教諭。

「冷めた優等生」。東洋英和女学院中学に入学して初めてキリスト教に触れたが、世の中を小馬鹿にし、教師から見たら嫌な生徒だったかもしれない。「やらない子」、できない子の気持ちに分からず、教師になどなるとは思ってもいなかった。ただ、当時は英和の生徒は教会に行くのが当たり前で、高等部の頃に聖ヶ丘教会で先輩たちや友人らと共に過ごした経験が、後の求道への備えとなっていたのではないかと振り返る。

英語教育の手法について考えたり、教育学にも関心を持ったシユタイナー教育への関心から、東京外国語大学ではドイツ語を専攻。しかし、英語教育学者の若林俊輔と出会い、英語教育で卒論を書く。それでも、教職課程の単位は取らなかつた。「選択肢の中には入っていない子、できない子の気持ちに分からず、教師になどなるとは思ってもいなかった。ただ、当時は英和の生徒は教会に行くのが当たり前で、高等部の頃に聖ヶ丘教会で先輩たちや友人らと共に過ごした経験が、後の求道への備えとなっていたのではないかと振り返る。

「もっとできることがあるのではないか。もう一度教育学に取り組み、大学時代は避けた教職課程を通信教育で取り、教員免許を取得した。母校での教育実習中、あなたに就職。一〇年後、トヨタのレクサスの立ち上げに誘われ、そちらに移る。車によって人生を豊かにするカルチャーに気づき、それを知ってもらいたかった。しかし、男社会で認められることの難しさにも直面する。

「もったいなくてあるのはないか。もう一度教育学に取り組み、大学時代は避けた教職課程を通信教育で取り、教員免許を取得した。母校での教育実習中、あなたに就職。一〇年後、トヨタのレクサスの立ち上げに誘われ、そちらに移る。車によって人生を豊かにするカルチャーに気づき、それを知ってもらいたかった。しかし、男社会で認められることの難しさにも直面する。

「もったいなくてあるのはないか。もう一度教育学に取り組み、大学時代は避けた教職課程を通信教育で取り、教員免許を取得した。母校での教育実習中、あなたに就職。一〇年後、トヨタのレクサスの立ち上げに誘われ、そちらに移る。車によって人生を豊かにするカルチャーに気づき、それを知ってもらいたかった。しかし、男社会で認められることの難しさにも直面する。

「もったいなくてあるのはないか。もう一度教育学に取り組み、大学時代は避けた教職課程を通信教育で取り、教員免許を取得した。母校での教育実習中、あなたに就職。一〇年後、トヨタのレクサスの立ち上げに誘われ、そちらに移る。車によって人生を豊かにするカルチャーに気づき、それを知ってもらいたかった。しかし、男社会で認められることの難しさにも直面する。

「心に残る葬儀をしていたが、ありがとございました」と言われ、務めを果たしたとの思いをもて帰った。火曜日のことである。帰って間もなく連絡があり、この週の土曜日に葬儀を行うことになった。今週も葬儀が続くが、一ヶ月前には連続の葬儀があった。前夜式・告別式と続き、その翌日も前夜式があり、告別式へと続いた。

葬儀が多いのは、教会はもちろんであるが、二つの社会福祉法人の施設、幼稚園関係者もキリスト教の葬儀を希望されるからである。前任の宮城県教会では、七年

葬儀の終わりに

間在任したが、一度も葬儀をしていない。在任中、二人の教会員が召天されたが、葬儀は仏式で行われた。家族は本人の信仰を尊重してキリスト教を希望するものの、親族は連続の葬儀があった。前夜式・告別式と続き、その翌日も前夜式があり、告別式へと続いた。

縁者の意思が重要となる。そこで、家族は仏式の葬儀が終わった後で、教会で記念会を開いたのであった。もう一人のケースは、召天されてからすぐに教会へ連絡をしてきた。本人が教会に出席していたことを知っているの、仏式で葬儀を行うものの、和尚さんが来る前に牧師さんにお祈りをしてもらいたいというのであった。

現在の教会で牧会するとい二〇年である。この間、教会員の葬儀は二〇名であり、施設や幼稚園関係は五〇名である。こんなに多くの皆さんの葬儀を行う。そろそろ自分の葬儀を用意しておかないと。

葬儀式文には、「お骨上げ」が無い。葬儀の最後であり、頌栄を高らかに歌い、終祷をささげている。（教団総会書記 鈴木伸治